

五月二日 日曜日

七時前起床。高山建築学校の事が本になるようで、その最終のゲラが送られてきたのを読み返した。三〇年昔のあの建築学校の懐しさは格別のものであるが、まだ昔を振り返るべき年ではない。しかし、読んでいるうちに懐旧の念が溢れ返るばかりになった。危い、危い。高山学校の教師陣で生き残っているのは、木田元先生、鈴木博之先生そして、私だけになってしまった。アトは皆、居なくなった。心して、前へ進もう。

十時半まで現場の外外を見て廻る。近所の方が、又何が始まるのかと関心を持って、道端で話しかけてくる。見て廻ると言う程大きくない現場なんだが、上下、水平に移動して、アレコレ考えしているとアツという間に時間が経つ。今日から謂わゆる連休だな。

十二時半研究室。十三時、第四回目の家づくりスクール。二〇名程の参加者であった。千村君のスケッチが面白く、成長していた。住宅（家）設計は誰にでも出来るという事を、実践的に立証するスクールであるが、どう展開するのか自分でもおぼつかぬところがある。室内、塩野君に銅版画わたす。新しい銅板を渡された。十五時三〇分九州忍田さん来室。十九時過迄打ち合わせ。修了後、高田馬場文流にて会食。二十一時過まで。二十二時世田谷村に戻る。

住宅設計は誰にでも出来るという開放的理想と、誰にでも出来るという水準の問題の設定の必然がある事は別種の問題設定な

んだが、この水準の問題が実に様々な、趣味の水準、つまり人間の品格の問題まで含んでしまつんだな。

五月三日

七時半起床。小雨模様の朝である。今日は下の庭に小さな畑を作ろうと考えていたのに、残念。朝食後土いじりで過す。屋上に上ったり下の庭に降りたり。ズーツとやりたいなと思っていた事をやってみた。雨も降らないようなので、植木屋に出掛けて、トマトの苗、その他買い込んで屋上に植えた。下の庭にも花を植えたり、タロイモの鉢を変えたり、鉄の柱にジャスマミンをからみつかせようとあんばいしたり、我ながら夢中に土いじりを続けた。午後遅く、流石に疲れてフラフラになって止めた。こんな事していいいんだらうかと不安になるところが私の貧乏グセの限界だ。しかし、草花や野菜づくりに何故一生懸命になるのであろうか。出会ったばかりの頃の川合健二は確か、五十八才で花子夫人とミカン畑や野菜作りにいそしんでいたのを思い出す。野菜や土をいじっていると突然良いアイデアが浮かぶのだと言っていた。私にはそんな事は訪れてこないが、普段アブストラクトなことばかり考えているから、それで具象物に触れたい欲求が生まれるのだらうか。世田谷村という鉄の架構体を植物で覆い尽くしたいという願望があるのだらうか。小さな小屋を屋上や三階のテラスに幾つか置いてみると、考えている事がハッキリ表現できるかも知れない。

五月四日

六時前起床。誰の所有物か知らぬが家にあつた何気なく読み始めた「異貌の中世」蔵持不三也、読んでいるが、これが意外に面

白く、読み続けている。キリスト教とモダニズム・デザインの関係を知りたいと考えているのだが、ヨーロッパの中世民衆の宗教観の中に、キリスト者を笑つ、愚者として眺める視点があるのが書かれている。モダニズム・デザインの世界に笑い（道化的）の要素が無い事に気付いてはいるのだが、それからの展開の方法が見つけれないでいる。アイロニーの方向でなく、笑いの方向があったのではないか。午前中「滑稽な巨人」津野海太郎平凡社読む。道遥は「天地間一大戯場」という言葉が好きだったようだ。

今、室内の私の連載のタイトルが、そのままのもののだが、巡り巡って坪内逍遙論になるのか、仰天した。熱海の双柿舎の会津八一の額の字の由縁や、そのデザインについて、もう一度双柿舎には行つてみたい。津野の結論らしきは、坪内逍遙に限界芸術の先駆け性を視るといふ事である。森鷗外等の正統モダニストには無い、今のところ変なとしか呼びぶよのない独自性（世界的な展望の中での）を視ている点である。シェイクスピアも教育も家庭も皆小運動だったんだ。

今日は一日中強い風が吹き荒れて、三階の寝室の屋根の一部のゴム膜が吹き飛ばされた。修理しなくては。

五月五日

小雨。今日迄休みか。明日は又、世田谷村の現場が始まる。階段、何処まで出来てくるか楽しみである。今日は午後ワールドフトオトプレスの小川氏との打合わせがある。Memoの小特集はもうチョットとフォーカスを絞らないといけない。十一時頃に、ホンノリとした陽光が指してきた。下の庭を犬のように歩きまわり、現場をアレコレと眺める。鉄材や材木が散乱するのをボーツとただただ眺めているのが何か救いだネ。ここ数日、乱読を続けてい

るが、書物に沈潜する度に、あらゆる事はすでに成されているという絶望に落ち込むばかりだ。

十三時研究室。休みの日の大学の大学は誰も居ないが良い。グリーン・アロー小川さんと小特集の打合わせ。インタビュー。十六時前修了。家づくり教室の場所を世田谷村に移したいのだが、世田谷村にはエレベーターがないので、足の不自由な人の事を考えると、色々とむずかしいな。でも大学という場所には、あの教室は合っていないのは歴然としている。院生が三名程来ていたのでお茶を飲みながら、今年のゼミのテーマは何にしようか等の話をしばらくした。十七時半研究室を去る。十八時半世田谷村着。一人で夕食を宗柳で食べる。一人で憮然としている私を見て宗柳のお母さんが珍説奇説辞典とやらの部厚い本を、こんなはどうですかとすすめてくれた。何故、こんな本をすすめるんだらうとフト妙な気分になったが、すすめられるままにページを繰ってみるとそれなりに面白いのであった。本が面白いのか、宗柳のお母さんが私にこんな本をすすめたのが面白いのか、よく解らぬままに、バッテリー寿司とあたたかいカケソバの定食をいただき、それなりに満足して帰った。何となく、内田百閒の本を拾い読みしているので、書き方がすぐに百鬼園先生になっているのが我ながらおかしい。全く私は俗人極まるな。